

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告（第一輯）10

廣西師範大學出版社

北經調查特第三十四號
昭和十六年十月十日

昭和十四年度

滿人農家經濟調查報告（其ノ一）

一 遼陽縣千山村下汪家峪屯一

南滿洲鐵道株式會社
北滿經濟調查所

例 言

一 本調査ハ農產物増產計畫ニ依ル特用作物ノ作付カ農家ノ經營經濟ニ如何ナル影響ヲ及ホセルカタ明カニシ延イテハ農產物ノ價額政策並農業經營改善ノ爲ノ資料ニセムカタメ爲シタモノテアル

二 本調査ハ昭和十四年八月ヨリ三箇年繼續調査トシテ實施シタ奉天省遼陽縣千山村、濱江省呼蘭縣孟家村、肇州縣朝陽村ノ三箇村ニ於ケル簿記調査ノ初年度分ノ報告テアル

三 本調査方法ハ滿洲調查機關聯合會版ノ「農家經濟簿」ヲ各農家ニ配付シ財產狀態、勞働狀況、現金及現物ノ出納、其ノ他農家經濟ニ關スル一切ノ出來事ヲ各村ニ一名ツツ常駐セル調査員（滿系）ヲシテ記帳セシメタ、集計ハ調聯ノ方法ニヨリ行ツタカ其ノ詳細ハ卷末ニ掲ケテ置イタ

三 調査部落ハ増產作物中棉花、甜菜、亞麻、燕麥ヲ栽培セル部落三箇村ヲ撰定シタモノテ調査部落及記帳調査農家戸數ハ左ノ通テアル（括弧内ハ増產獎勵作物）

- (一) 奉天省遼陽縣千山村下汪家峪屯（棉花） 十五戸
- (二) 濱江省呼蘭縣孟家村劉泉井（甜菜、亞麻） 十五戸
- (三) 濱江省肇州縣朝陽村大地窩堡（燕麥） 十五戸

調査農家ノ撰定ニ當リテハ農家ノ經營様式、經營規模ニ就テ部落ノ各階層ノ構成ニ比例シテ撰定スルコトニ努メタルモ記帳能力其ノ他種々ナル事情ノタメ多少不充分ナルヲ免レナカツタ尙調査農家ニ就テハ變ニ（昭和十四年七月）部落並農家ノ撰定ノ場合聴取ニヨル經營ノ概況調査（昭和十三年度）ヲ爲シテ置イタ

四

初年度（昭和十四年度）ハ種々ノ事情ト記帳練習ノ意味ヲ兼ネ前記ノ如ク簿記年度半タル八月ヨリ記帳ヲ開始シタ爲一箇年ノ經營經營全般ヲ觀察スルコトハ出來ナカツタ、特ニ勞力關係、生産費關係、増産作動トノ有機的結合關係等ニ付詳細ヲ調査スルコトハ困難ナルヲ以テ之等ノ詳細ナル報告ハ次年度（十五年度）ニ譲ルコトトシタ、此ノ點諸賢ノ諒解ヲ乞ハネハナラヌカ一應昭和十四年八月始ヨリ昭和十五年七月末迄ノ收支ヲ取纏メ參考ニ供スルコトトシタ

就中農家ノ生計費、農家財産ノ構成其ノ他二箇年度ニ亘ルトモ支障ナキモノニ就キテハ可及的詳細ナ分析ヲ試ミヨウト思フ

尙本報告ノ發表ハ各村別ニ統計説明編三冊、綜括編一冊、計四冊ニ別チ發表スルコトトシタ

五

本調査擔當者ハ左記ノ七名テアルカ總括報告書ノ作成ハ小阪一夫、統計説明編ノ作成ハ中村忠造、集計並現地調査ハ主トシテ中村忠造、

佐藤吉夫ノ兩名カ當ツタ

昭和十六年十月十日

小阪 一夫
中村 忠造
棚橋 富三郎
佐藤 吉夫

王 文 耀 (遼陽常駐調査員)
張 慶 余 (呼蘭常駐調査員)
李 廣 義 (肇州常駐調査員)

南滿洲鐵道株式會社
北滿經濟調查所 長

(一)	經營而積廣狹別戶數	一
(五)	小作料	一
	第四 農業經營形態及規模	一

第五	作物及家畜	一
(一)	作物ノ種類及作付面積	一四
(二)	家畜ノ飼養頭數	一六
第六	農業事情	一八
一	作物栽培方法	一八
(一)	連輪作	一八
(二)	整地施肥播種	一八
(三)	間引除草中耕培土	一九
(四)	收穫	一九
(五)	其他	二〇
二	役畜飼育狀況	二〇
三	農業勞働力過不足狀況	二一

第七	其、他經營事情並生活狀態	二一
第二章	調查成績	二三
第一節	農家經濟ノ基礎	二三
第一	家族ノ構成	二三
第二	農家財產ノ構成	三〇
第三	農業經營地ノ構成及耕地經營概況	三二
第二節	農家經濟ノ決算	三六
第一	農家所得	三六
(一)	粗所得	三六
(二)	所得の失費	三六
(三)	農家所得	三六
第二	家計費及家族負擔家計費	三八
第三	農家經濟餘剩	三九
第四	農家年度內純財產增加額	三九
第五	財產價格變動ニ因ル損益	四〇
第三節	農家經濟成果ノ構成	四一
第一	所得的收入ノ構成	四一
第二	所得の支出ノ構成	四五

第三	家計費ノ構成	四八
第四	財産の收入及支出ノ構成	五三
(一)	財産の收入ノ構成	五三
(二)	財産の支出ノ構成	五五
第四節	農業經營ノ決算	五七
第一	農業經濟經營トシテ、農業經營計算	五七
一	農業粗收益	五七
二	農業經營費	六三
三	農業純收益	六九
第三章	要約	七〇
附	本調査ノ集計方法	七七
(一)	一 農家經濟ノ基礎	七七
(二)	家族ノ構成	七七
(三)	農家財産ノ構成	七八
(四)	農業經營地ノ構成及經營概況	七八
(五)	二 農家經濟ノ決算	七八
(六)	農家ノ所得	七八
(七)	家族負擔家計費	七九

(一) (四) (三) (二) (一) (七) (四) (三)

農家經濟調查別表

第一表	一 農家經濟ノ基礎諸表
第二表	家族ノ構成
第三表	農家ノ飲食員數表
第四表	農家財產ノ構成
第五表	農業經營地ノ構成
第六表	農業經營地ノ構成（作付狀況表）
第七表	土地所有表
第八表	建物所有表
第九表	建物使用狀況表
第十表	大家畜所有表
第十一表	大機具所有表
第十二表	小植物並小動物所有表
第十三表	小器具所有表
第十四表	現物表（年度末）
第十五表	現金及準現金並負擔表

第十六表 年度始竝年度末農家財產ノ構成

二 農家經濟ノ決算諸表

第十七表 農家所得

第十八表 家計費及家族負擔家計費

第十九表 農家經濟餘剩

第二十表 農家年度內純財產增加額

第二十一表 財產價格變動ニ因ル損益

三 農家經濟成果ノ構成諸表

第二十二表 所得的收入ノ構成

第二十三表 所得的現金支出ノ構成

第二十四表 家計費ノ構成

第二十五表 財產的收入及支出ノ構成

第二十六表 所得的收入ノ月別構成

第二十七表 所得的支出、財產的收入、支出ノ月別構成

第二十八表 家計費ノ月別構成

四 農業經營ノ決算諸表

(一) 農家經濟經營トシテノ農業經營計算諸表

第二十九表 農業粗收益

第三十表 農業經營費

第三十一表 農業純收益

第三十二表 單位面積當農業純收益

五 參考諸表

第三十三表 勞銀內譯表

第三十四表 作物收穫狀況表

第三十五表 主要農產物處分狀況表

第一章 調查部落ノ概況（遼陽縣千山村下汪家峪屯）

茲ニ於テハ調查農家ト部落トノ諸關係並自然的環境ニ就テ其ノ概略ヲ記スルコトトスル

第一 部落ノ自然條件其ノ他概況

(一) 部落ノ位置及地勢

下汪家峪屯ハ遼陽縣ノ東南部千山村ノ西北ニ位置シ縣城ヲ距ルコト東南約三〇軒ノ地點、山岳千山ノ西北山麓ニ位シ風光比較的優レタ丘陵カカツタ地帶テアル

(二) 歴史

古老ノ言ニ因ルト本屯ハ今ヲ去ルコト三百年前清ノ順治八年張長武、寛和ノ兄弟カ入地開拓シタノニ始マツタモノテアルト。其ノ後分家或ハ新移住者ニヨツテ戸數カ漸次増加シタノテアルカ本屯ニテ現在張姓ヲ名乗ルモノ其ノ大部ヲ占メテ居ルトコロヨリ見テ大半カ分家ニヨリ發達シタ部落テアルコトカ解ル（即チ張ヲ名乗ル戸數カ六〇戸、他姓ハ一二戸ヲ占メテ居ル）
本屯ノ土地ハ以前ヨリ次第ニ肥沃ニナツテ來タトハ農民ノ言テアル

(三) 氣象

遼陽棉花試驗場ニ於テナセル觀測結果ヲ掲ケルト次表ノ通テアル

全	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	
九・七	四・七	三・〇	一一・六	一八・二	二六・四	二七・七	二二・一	一七・三	一二・四	〇・八	七・六	一二・三	平均氣温(合時)
七一・五	六九・五	七四・八	八二・一	七七・五	八五・八	七六・二	八一・七	六四・〇	五七・〇	六二・五	六八・六	五七・八	平均濕度
八一四・〇	六・一	三一・八	二七・九	一六四・三	二一二・七	一四〇・七	七八・八	九六・〇	三五・九	一六・二	一	三・六	降水量總量
二七六・二	二〇四・二	一九八・八	二四〇・七	二〇〇・四	二二〇・〇	二五七・〇	二三一・七	二七九・二	二八四・七	二二〇・三	二一三・一	二一二・〇	日照時數總量
一八一三・九	八〇・七	七九・六	一〇六・八	一〇五・八	一八七・三	二四七・四	二四八・六	二六四・一	二一一・四	一三二・三	八七・一	六二・〇	蒸發量
二一八六・七	四一八・一	三一六・一	二一三・一	一一一・〇	一一一・七	一一一・四	一一一・九	一一一・六	八一四・一	二一九・一	二一〇・五	六一・一	降水雪
二五〇・七	二一・二	二一・一	一	三	三	一	一	一	二	五	一	一	霜
一四四日				初霜 九月三〇日				晚霜 五月八日					快晴曇天不照
													無霜期間

(四) 交通

本屯ハ前述ノ如ク遼陽縣ノ南部三〇軒ニ位置シテ居ルカ西方一〇軒ニハ滿鐵本線カ走ツテ居ル爲立山驛、鞍山驛ニハ至極交通便テアル、之等ノ驛ニ向フ道路モ平坦ニシテ良好テアル

要之本屯ノ經濟的位置ハ佳良ト言ハネハナラヌ

(五) 治安

遼陽縣ノ東南部ノ千山山岳地帶ハ本溪、鳳城、海城ノ三縣ニ接スル三角地帶ノ爲所謂千山ノ匪窟地域ト稱サレタトキモアツタカ現今ハ殆ト其ノ影ヲ見ルコトカ出來ナイ、本屯ニ於テハ勿論近時匪害ヲ被リシコトハナク農民ノ氣質モ至ツテ平穩テ眞面目ニ農耕ニ從事シテ居ル現状テアル

(六) 其他

最近ニ於ケル農作ノ豐凶ヲ見ルニ康徳五年五月二十六日ニ雹害カアツテ大豆、棉花カ相當ノ被害ヲ受ケタ、本六年ハ春期旱魃ニアヒ收穫時ニハ雨量多ク高粱發芽セルモノアリ亦棉花ニ蚜虫ノ發生カ多ク被害カ大デアツタ

(七) 度量衡

本屯ノ度量衡ハ次ノ通りテアル

度量衡項目別	舊制	新制	メートル法	本屯使用
度	一 天地	〇・陌五九五	〇・陌五九五	舊制

量	
衡	
一斗	一
二斗	二
四斗	四
三斗	三
五斗	五
一斤	一
二斤	二
三斤	三
四斤	四
五斤	五
〇・五	〇
五	五
六	六
三	三
新制	新制

(一) 第二戸口

本村ノ戸數ハ七十二戸ニシテ之ヲ職業別ニ見ルニ農業六四戸ニシテ全戸數ノ八八。九%ヲ占メ農業外八戸ニシテ全戸數ノ一一。一%ヲ算ス
 更ニ農業者ヲ自小作別ニ觀ルニ自作農四六戸ニシテ全戸數ノ二〇。八%、小作農ニ於テハ僅ニ二三戸ニシテ四。二%ヲ占メテ居ル
 農業外戸數ヲ見ルニ地主三戸ニシテ全戸數ノ七。二%、一ノ四。二%、労働者及其ノ他五戸ニシテ全戸數ノ六。九%ヲ占メテ居ル

(二) 人口

總人口ハ五八〇人ニシテ一戸當家族員數ハ八。〇六人テアリ之ヲ男女別ニ見ルニ男ハ三〇一人女ハ二七九人ニシテ一戸當ニ就テ見レハ男四。一八人、女ハ三。八八人テ其ノ割合ハ夫々五一。九%、四八。一%テアル
 職業別及年齡別構成ハ次表ノ如クテアル